

課題

【小・算数】角の大きさについて理解していない

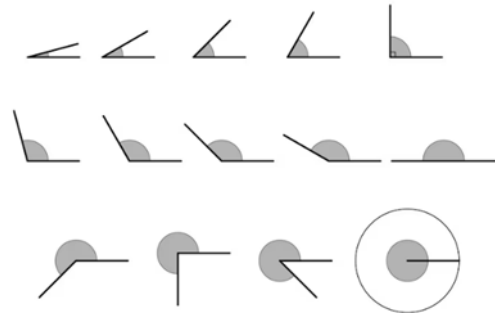
手立て

- 角の大きさを回転の大きさとして捉える場面を設定する。
- 角をつくる二つの辺をそれぞれのばしても辺の開き具合は等しいことを確かめる場面を設定する。
- 図形の向きが異なっても、辺の開き具合が等しい場合は、角の大きさは等しいことを確かめる場面を設定する。

具体例

POINT① 具体物等を用いて、角の大きさを回転の大きさとして理解させる。

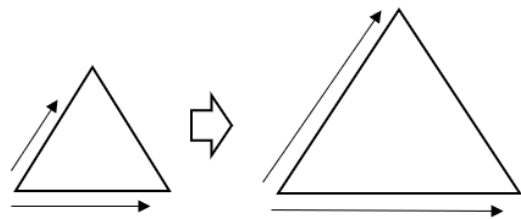
- ◎割りばしと折り紙で作った扇を用いたり、デジタル教材を用いたりして、頂点を中心にして1本の辺を回転させる。この活動により、角の大きさが変化することを児童に体験させる。



※角の大きさを回転の大きさとして理解させるための体験活動であることを意識して指導することが大切です。

POINT② 辺の長さは、角の大きさと関係がないことを理解させる。

- 辺の長さが異なり、角の大きさが等しい図形を提示し、それを重ねる体験をさせる。
- 基となる図形を示し、その辺をのばす活動を具体物やデジタル機器を用いて行う。



POINT③ 図形の向きは、角の大きさと関係がないことを理解させる。

- 直接重ねたり、①で使用した扇をそれぞれの角に当てたりして、向きの異なる角の大きさを調べることを体験させる。
- 図形を回転させ、対応する角の向きを揃えてから、角の大きさを調べることを体験させる。

